

# 今年度の取組実績

令和5年3月10日（金）

# 令和4年度の実績

## 1. 情報発信・人材育成事業

- ①日本遺産ガイダンスセンターの運営
- ②市内で開催されるイベントでの日本遺産のPR
- ③日本遺産関連イベントへの参加
- ④日本遺産巡回展示の実施
- ⑤市ホームページで日本遺産関連情報を随時発信

## 2. 普及啓発事業

- ①日本遺産認定5周年記念事業の実施
- ②出前講座等を通じた普及啓発事業
- ③マスコミを活用したPR
- ④他の日本遺産認定自治体との連携
- ⑤日本遺産「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」構成資産ガイドブックの頒布
- ⑥日本遺産パンフレットの作成・配布

### 3. 調査研究事業

- ①構成資産の詳細調査の実施
- ②地域活性化計画の検証と令和5年度以降の日本遺産事業計画の立案
- ③構成資産の追加認定に係る調査の実施

### 4. 公開活用のための整備に係る事業

- ①旧忍町信用組合店舗の管理・活用
- ②構成資産公開イベント等の開催
- ③ふるさとづくり事業による構成資産活用の支援
- ④説明板の設置

### 5. その他

文化財保存活用地域計画の作成

# 1. 情報発信・人材育成事業

## ① 日本遺産ガイダンスセンターの運営

栗代蔵、足袋蔵まちづくりミュージアム2階に開設している日本遺産ガイダンスセンターを通年で運営

令和5年度も引き続き同ガイダンスセンターの運営を行っていく

### 日本遺産認定5周年記念写真展を開催

- ・開催日 令和4年5月3日（火）～31日（火）
- ・来場者数 315人



行田市日本遺産認定5周年記念  
写真展の様子

## ② 市内で開催されるイベントでの日本遺産のPR

NPO法人ぎょうだ足袋蔵ネットワーク主催の足袋蔵めぐりイベント「第18回ぎょうだ蔵めぐりまちあるき」において、足袋蔵保存活用コーディネーターの協力を得て、日本遺産PR展示を実施

- ・開催日 令和4年4月16日（土）
- ・参加者数 500人



「ぎょうだ蔵めぐりまちあるき」  
のPR展示風景

# 1. 情報発信・人材育成事業

## ③日本遺産関連イベントへの参加

### (1) 日本遺産サミット in 下関

日本遺産サミットは、日本遺産認定自治体が一堂に会して、日本遺産認定自治体の情報発信や普及啓発を図る日本遺産連盟主催のイベント。

令和4年度は、山口県下関市で開催され、本市も参加してパネル展示やパンフレット配付などにより「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」をPRした。また、あわせて開催された日本遺産連盟令和4年度総会へも出席した。

- ・開催日 令和4年10月29日（土）～30日（日）
- ・来場者数 延べ36,500人

### (2) 「日本遺産の日」記念イベント

2月13日の「日本遺産の日」を記念して開催された文化庁主催のPRイベントに参加し、パネル展示やパンフレットの配付を通じてPRした。

- ・開催日 令和5年2月11日（土）～13日（月）
- ・会場 有楽町駅前広場
- ・来場者数 集計中



日本遺産サミットの様子



有楽町駅前広場でのPRブース出展の様子

# 1. 情報発信・人材育成事業

## ④日本遺産巡回展示の実施

市内の小中学生に本市の日本遺産の認定ストーリーについて理解を深めてもらうために、市内小中学校等で本市の日本遺産に関するパネルの巡回展示を実施。

東小学校と下忍小学校では、本市学芸員がゲスト・ティーチャーとなり、日本遺産についての授業も実施した。

- ・実施校 太田東小学校を除く小中学校（20校）
- ・巡回時期 令和4年6月～令和5年3月にかけて、各校2週間以内

## ⑤市ホームページで日本遺産関連情報を随時発信

市ホームページや公式SNS、市報を通じて日本遺産関連情報を随時発信。



桜ヶ丘小学校での展示の様子



太田中学校での展示の様子

# 2. 普及啓発事業

## ①日本遺産認定5周年記念事業の実施

令和4年は、本市の日本遺産ストーリー「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」が平成29年に認定されてから5年を迎えた。この認定5周年を記念し、次の記念事業を実施した。

### (1) 日本遺産認定5周年記念写真展

本市の日本遺産の歩みを写真で振り返る展示会を開催した。

- ・開催期間 令和4年5月3日～5月31日
- ・会場 行田市日本遺産ガイダンスセンター（栗代蔵）
- ・参加者数 315人

### (2) 日本遺産認定5周年記念クイズラリー

クイズを解きながら市内の日本遺産構成資産を巡るクイズラリーを、夏休み期間中に合わせて開催した。

- ・開催期間 令和4年7月16日～9月4日
- ・参加者数 389人

クイズラリーチラシ

### (3) 日本遺産認定5周年記念「日本遺産の足袋蔵をめぐる」

構成資産の足袋蔵等を歩いてめぐるツアーを、「日本遺産の日」の前日に実施した。

- ・開催日 令和5年2月12日
- ・参加者数 19人

「日本遺産の足袋蔵をめぐる」での足袋づくり体験の様子



## 2. 普及啓発事業

### ② 出前講座等を通じた普及啓発事業

市民等からの希望に応じ、本市の日本遺産ストーリーについて講演を実施した。

- |                |     |                |       |               |
|----------------|-----|----------------|-------|---------------|
| ・ 持田公民館        | 開催日 | 令和4年 8月24日 (水) | 、参加者数 | 28人           |
| ・ 須加公民館        | 開催日 | 令和4年10月 1日 (土) | 、参加者数 | 11人           |
| ・ 県立進修館高校1年生   | 開催日 | 令和4年11月15日 (火) | 、参加者数 | 約160人(生徒154人) |
| ・ 県立さきたま史跡の博物館 | 開催日 | 令和4年12月11日 (日) | 、参加者数 | 27人*「みらい」で実施  |
| ・ ものづくり大学2年生   | 開催日 | 令和5年 2月 9日 (木) | 、参加者数 | 約 40人         |
- ・ 行田おもてなし観光局主催のイベント「案内人と歩く足袋蔵めぐり」において、ガイド育成を兼ねた日本遺産構成資産の説明を実施。

### ③ マスコミを活用したPR

#### (1) シリーズ番組「行田市の日本遺産探訪」の制作及び放映

本市の日本遺産の構成資産を訪ね歩くシリーズ番組を制作し、令和4年9月からテレビ行田にて放映中。

#### (2) フィルムコミッションを通じたPR

令和4年度中にテレビドラマや映画の撮影に使用された日本遺産の構成資産

- ・ 牧禎舎（ドラマ「アトムの子」）



「案内人と歩く足袋蔵めぐり」の様子

## 2. 普及啓発事業

### (3) 行田市の日本遺産を巡る ～足袋蔵等近代化遺産見学ツアー～

普段は見られない足袋蔵や足袋工場見学、花手水めぐり、本藍染体験やプチ足袋づくり体験など4つのスペシャル・ツアーを企画した。ツアーによっては、キャンセル待ちが出るほどの盛況ぶりであった。

～ツアー及び参加者数～

参加者総数 40人

- |                      |             |      |
|----------------------|-------------|------|
| ①路地裏の足袋蔵探検&足袋工場見学    | (令和4年10月20日 | 11人) |
| ②マルシェの日に足袋蔵めぐりと本藍染体験 | (令和4年11月6日  | 5人)  |
| ③足袋蔵と夕暮れの花手水「希望の光」見学 | (令和4年11月19日 | 10人) |
| ④足袋づくりプチ体験&花手水めぐり    | (令和4年11月23日 | 14人) |



ツアーの様子

### (4) 日本遺産講座「行田市の日本遺産ストーリーを学ぶ」

認定5周年を記念して、郷土博物館において日本遺産の講座を開催した。

- ・開催日 令和4年10月22日
- ・講師 文化財保護課長
- ・参加者数 13人

### (5) 「日本遺産 足袋蔵のまち行田」ロゴ・マークの制定

認定5周年を記念し、ロゴマークを制定。今後、市内土産物店の包装紙や日本遺産関連パンフレットなどで活用し、本市が日本遺産の認定自治体であることをPRしていく。



# 2. 普及啓発事業

## ④ 他 の 日 本 遺 産 認 定 自 治 体 と の 連 携

### 「日本遺産を活かしたまちづくり」に参加

近隣で認定を受けている館林市（認定ストーリー「「祈り」「実り」「守り」の沼が磨き上げた館林の沼辺文化」）と連携し、日本遺産のPRを継続して実施していく。令和4年度は、相互の施設でお互いの日本遺産パンフレットの配布を行った。また、館林市で開催された日本遺産「里沼」セミナー「日本遺産を活かしたまちづくり」に参加して行田市の日本遺産について講演を行った。

- ・開催日 令和5年1月29日
- ・参加者数 73人

### 「千百年を紡ぐ八王子織物展」への出品

八王子市の日本遺産「桑都物語」推進協議会が八王子織物協同組合と共催した「千百年を紡ぐ八王子織物展」に足袋とミシンを出品し、日本遺産関連のパンフレットの配布を行った。

- ・開催日 令和5年1月28日～1月29日
- ・参加者数 1500人

1/29(日) 14:00～16:00 (開場13:30) 参加無料

令和4年度 日本遺産「里沼」セミナー  
日本遺産を活かしたまちづくり

■期 日：令和5年1月29日 14:00～16:00 (開場13:30)  
■会 場：館林市文化会館小ホール (〒374-0018 群馬県館林市朝町3-1)  
■参加者募集：80名 ※申込方法  
(A) 1/4(日)9:00～ ぐんま電子情報発信システム  
(B) FAX(0276-74-4113)  
(C) メール(nihonisan@city.tatebayashi.gunma.jp)

■内 容：  
(1)アトラクション「里沼の記憶」 解説：関根昌之さん(牛山邸)  
(2)日本遺産「里沼」の近況報告 報告：館林市教育委員会文化課長  
(3)近隣の日本遺産認定地の事例紹介 ※先着順発表の順番ある取組を多く紹介いたします  
①栃木県宇都宮市「日本遺産を活かした地域活性化の取組み～大谷石文化の息づくまち宇都宮～」  
②茨城県笠間市「シリアル型歴史「かましろ」の取組みについて」  
③埼玉県行田市「足袋を活かしたまちづくり～足袋とくらしの博物館を中心に～」

※セミナーの様子を、YouTube動画配信番組チャンネルにて配信予定です。(アーカイブあり)

主催：館林市・館林市教育委員会・館林市「日本遺産」推進協議会

日本遺産を活かしたまちづくりパンフレット

# 2. 普及啓発事業

## ⑤ 日本遺産「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」構成資産ガイドブックの頒布

資産ガイドブックの頒布を通じた普及啓発に取り組んだ。

- ・頒布価格 1冊 1,200円構成
- ・頒布場所 日本遺産ガイダンスセンター、行田市郷土博物館、文化財保護課
- ・頒布実績 23冊

日本遺産  
「和装文化の足元を支え続ける  
足袋蔵のまち行田」  
構成資産ガイドブック



行田市日本遺産推進協議会  
構成資産ガイドブック

## ⑥ 日本遺産パンフレットの作成・配布

日本遺産のストーリーの概要、主要構成資産を紹介するパンフレットを作成・配布し普及啓発に取り組んだ。

- ・作成部数 5,000部
- ・頒布場所 日本遺産ガイダンスセンター、行田市郷土博物館、市内の観光案内所



日本遺産パンフレット

# 3. 調査研究事業

## ① 構成資産の詳細調査の実施

未調査の構成資産「イサミ・コーポレーション・スクール工場」のモルタル蔵1棟について、現況調査と実測図の作成を委託により実施



調査風景

## ② 地域活性化計画の検証と令和5年度以降の日本遺産事業計画の立案

日本遺産推進庁内検討委員会を立ち上げ、これまでの事業の総括を行うとともに、それを踏まえた令和5年度以降の日本遺産事業計画を立案中、3月16日までに文化庁へ書類を提出、令和5年第1四半期（4月～6月）に審査を受ける（書類審査、現地確認等）

## ③ 構成資産の追加認定に係る調査の実施

足袋蔵の可能性のある蔵や足袋商店関連の可能性のある歴史的建造物について、文献調査、聞き取り調査を随時実施中

構成資産にふさわしい文化財があるか精査を随時行い、追加認定の申請を行う

# 4. 公開活用のための整備に係る事業

## ① 旧忍町信用組合店舗の管理・活用

「Vert Café」を営業して子育て世代の活躍の場として活用  
「テアトルヴェール」の開催（10月7日～11月7日、1月20日～2月20日）  
行田市書道人連盟作品展・日本遺産構成資産写真展



開催風景

## ② 構成資産公開イベント等の開催（再掲）

令和5年2月13日の「日本遺産の日」に合わせ、通常は非公開の構成資産を公開  
（2月12日に実施の「日本遺産の足袋蔵をめぐる」で通常は非公開の小林家住宅、  
大澤家住宅旧文庫蔵、古蛙庵の内部を見学）



古蛙庵見学風景

## ③ ふるさとづくり事業による構成資産活用の支援

ふるさとづくりA事業（構成資産等改修・活用）について、令和5年度の事業実施に向けて事業者を公募し、事業実施に向けた相談等の支援を行う

# 4. 公開活用のための整備に係る事業

## ④ 説明板の設置

令和3年に構成資産に追加認定された「小林家住宅」に説明板を作成



足袋原料問屋の村賀商店が、昭和16年(1941)に祖母の隠居住宅として建設したと伝えられる住宅です。行田の足袋商店はしばしば別宅を持っていましたが、この住宅は、和風建築と洋風建築が複合された珍しい建築となっています。建物全てにおいて贅沢な材料が吟味されて使用されており、当時の足袋商店の栄華がしのべられます。

令和5年2月 行田市教育委員会

構成資産説明板

# 5. その他

## 文化財保存活用地域計画の作成

令和4～6年度に作成を行う「行田市文化財保存活用地域計画」の中に日本遺産を位置づけ、今後の保存活用の方向性を明確にする。